

ここが問題！リニア新幹線

第 108 号 2024年1月9日 リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会 web-asao.jp/hp/linear

JR東海が東百合ヶ丘工区で大深度トンネルの本掘進を表明 見切り発車の本掘進表明にルート上・周辺住民の不安高まる

東百合ヶ丘非常口の位置

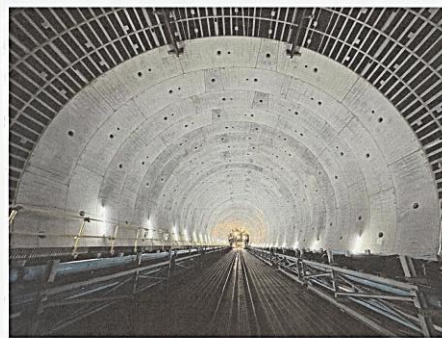


矢印が調査掘進工区（133メートル）



東百合ヶ丘非常口
深さ94メートル
大きさは直径39m

○東百合ヶ丘工区の坑内の状況（2023年9月29日撮影）



東百合ヶ丘工区調査掘進内部
調査でなく初期掘進とわかる

JR東海は昨年12月に実施した2回の麻生住民説明会で、東百合ヶ丘非常口からの大深度トンネルの調査掘進は133メートルの掘削で終了し、地表面の変位や地下水の推移変化、振動・騒音の地表面への影響はなかったと説明しました。そして今年9月をめぐりに片平非常口に向けて、大深度トンネルの本掘進を開始することを表明しました。本掘進開始の方針に対し住民からはわずかな距離の調査掘進が問題はなかったということだけで住宅の下を掘っても大丈夫なのかという不安の声が上がっています。（麻生説明会の質疑等は2～4面に掲載）

調査掘進はおととし10月、北品川非常口、坂下西非常口（愛知県春日井市）で始まり、その川崎の梶ヶ谷、東百合ヶ丘非常口、小野路非常口と続き、名古屋市名城非常口の調査掘進は今月3回の説明会を行いその後始まる予定です。以上の調査掘進の第一陣であった北品川工区では124メートル、坂下西工区ではわずか40センチの掘進で工事は長期間中断されたままです。

<調査掘進工事の現況>

工区	開始時期	2023年8月	2023年11月	2023年12月	目標
北品川	2022年10月	124m	124m	124m	300m
梶ヶ谷	2023年3月	45m	133m	147m	250m
東百合ヶ丘	〃	36m	103m	133m	150m
小野路	2023年5月	1m	29m	37m	350m
坂下西	2022年10月	40cm	40cm	40cm	250m
名城	2024年?				

24時間ノンストップの掘削工事で地中・地表への影響はないのか

東京外環道の大深度トンネル工事では住宅街で騒音・振動、道路陥没、空洞発生、酸欠気泡の噴出などの大きな異変が起きました。住宅街下の本掘進は極めて危険な工事であり中止すべきです。

麻生区でリニア調査掘進説明会、本掘進開始の方針に住民からの異議



JR東海（神奈川東工事事務所）は、昨年12月17日、22日に麻生小学校と麻生市民館で東百合ヶ丘非常口からの調査掘進の結果について住民説明会を開きました。参加者はそれぞれ80人でした。リニアルート周辺の住民や東京・神奈川連絡会の会員も参加し、住民ら10名程度の参加者が質問しました。JR東海神奈川東工事事務所や東百合ヶ丘工区の工事を請け負うJV関係者が質問に答えましたが、133メートルの調査掘進で地表面の変位や地下水

の異常等は起こらなかった。「準備を整えて今年中に、片平非常口に向けての本掘進を開始する」という方針に、「調査掘進と、24時間住宅街の下を掘る本掘進とは工事の影響は大きく異なる」、「北品川や春日井市の坂下西の調査掘進が中断しているのになぜ東百合ヶ丘の本掘進を焦るのか」など、参加者から疑問の声が相次ぎました。以下、12月22日の住民説明会（午後6時開始、麻生市民館大ホール）の概要を報告します。

<調査掘進に関するJR東海の説明>

「東百合ヶ丘工区の調査掘進については今年2月に説明会を行い、3月から9月まで調査掘進を進めてきた。今回調査掘進の結果について取りまとめ、今日住民の皆さんに調査結果を説明することになった。今後の本掘進に関する皆さんの不安を取り除くための説明会である。後半には皆さんからの質問に答えることになっており、皆さんのご理解をお願いする。今後の工事に関し、引き続き自治会など地域のご理解とご協力をお願いし、川崎市との連絡を密にして慎重に進めて行く」。

「掘進による周辺への影響の確認について・・・」

- ①地表面変位の計測・・・水準測量をもとに傾斜角変化の調査を5か所で行った。傾斜角は幅10メートルに対し10ミリ変位する1/1000radを基準にして、4/1000radが不具合と見られるが、調査掘進ではいずれの観測点でも±3ミリ以内に収まっており、変位も計測されなかった。掘進による影響は無かったと考える。
- ②騒音・変動の確認・・・3か所で測定。非常口近い所ではトンネル直上、20メートル離れ、40メートル離れの3か所で測定。シールド機掘進中の振動レベルは25未満～45dB、騒音レベルはシールド機内で42～47dB、シールド機前面で58～64dBだった。シールド機が発生する振動は地中を伝達する中で減衰していることを確認しており地上への影響はなかった。
- ③地下水位の計測・・・6月末から9月末まで4か所で計測したが浅層地下水の水位は変動なし。深層井戸水には一時的な変動が生じたが、その後は収束している。

施工管理の取組について・・・

東京外環道で地表面の陥没事故が発生したが、

【特殊な地盤条件となる区間】における【施工に課題があったこと】が報告されている。中央新幹線の大深度工事区間にはそのような特殊地盤がないと考えているが、施工管理をより強化する。泥土圧の管理、泥土性状の確認、取り込み土量の管理を行う。当社のトンネル施工検討委員会シールドトンネル部会から

東百合ヶ丘工区の工事日程～JR東海説明資料から

	令和4	令和5	令和6年	以降
調査掘進		■		
本掘進			■ ★ オープンハウス	■

からは今後の本格的な掘進について調査掘進同様、慎重かつ確実に進めて行くよう助言があった。今後の本格的な掘進においても適宜、専門家に助言をいただき、安全に工事を進めて行く」。

<説明会質疑>

女性参加者・・・家屋調査の範囲を拡大してほしい

質問：家屋調査の範囲が40メートル以内という根拠を教えてください。

回答：家屋調査の範囲は日本トンネル技術協会の基準に沿って設定している。範囲外で地表面の変化などが見られた場合、相談していただければ対応する。

質問：家屋調査範囲以外の住民には調査依頼はしないのか。

回答：家屋調査対象者には事前に連絡をする。工事の状況は当社のホームページなどで逐次お知らせする。また直接周辺にお住まいの方と直接お話しできるオープンハウスを設ける。

質問：50、60メートル以内の人に対しても家屋調査をしてもらいたい。

回答：40メートルを外れるところには工事の影響はないと考えている。それが基準である。

男性参加者・・・地表面の傾斜角の許容範囲の基準がわからない

質問：実際に掘って行くが、地表面の傾斜角が±3ミリ範囲なら許容範囲という理由は？

回答：計測結果では時系列的な傾斜角を数字で示しているが、日本建築学会の設定では、10メートルごとに何ミリかというのを1/1000という形で示している。その数字が大きくなれば地表に影響が出る。±3ミリ以下というのは誤差の範囲若しくは自然変位であり、今回の調査で工事の影響は見られなかったということである。

男性参加者・・・本掘進になれば工事車両数が増えるのではないか

質問：東百合ヶ丘非常口近くに住んでおり、300世帯の世話役をやっている。9月からの本掘進の前に説明会をやるのか。オープンハウスを設けるからやらないのか。

回答：本掘進の前にオープンハウスを開設する。

質問：300人のうち1人かもしれないが、心臓の悪いお年寄りが建設機械や工事騒音で眠れないという訴えがあった。また、窓に泥が付着するという話が寄せられた。本格掘進になれば土の量も工事車両の数が増えるのではないか。

回答：窓に砂が付着したという方は少し離れたところに住んでいるので調査掘進による土砂の影響ではないのではないかと。本掘進の工事車両は最だいで一日320台。

男性参加者・・・地下45メートルでも工事の影響はないと言えるのか

質問：私はトンネルが45メートルという浅いところに住んでいる。東百合ヶ丘は地下90メートル。浅いところでは地表に振動とかの影響があるのではないかと。

回答：45メートルといってもしっかりした大深度地盤であり工事の影響は考えられない。また、騒音はシールドマシンで削ったときに発生するので、なめらかに削れるよう添加材を入れるので問題はない。

男性参加者・・・本掘進で地表への絵右京が大きくなるのではないかと

質問：3月から9月まで133メートルを掘削したが、本掘進となれば地表への影響は大きいのではないかと。シールドマシンの掘進スピードも3~4倍になる。

回答：調査掘進は毎分10ミリ、本掘進は30ミリのスピードで掘削する。ただ今回の調査結果を見ると本掘進を行っても影響はないと考えている。調査掘進でも土圧などについてきちんと管理しており、本掘進でもしっかり管理する。本掘進でもまずはゆっくりシールド機を動かし次第にスピードを上げ掘進して行くのでご安心を。

質問：家屋調査の件だが、JR東海は40メートル以上離れたところは放って行くのか。

回答：調査掘進についても40メートル以内で調査を行った。ただ、範囲外で影響が見つかった場合、あるいは住民が影響を見つけた連絡した場合は調査するという考えである。

男性参加者・・・24時間掘り続けることは危険、本掘進の中止を求める

質問：各所で調査掘進を進めているが、北品川と坂下西では工事が中断している。なぜ東百合ヶ丘だけ急ぐのか。本掘進となれば毎日24時間住宅地を掘るので危険だ。中止を求める。

調査掘進で排出した発生土の量と工事車両数、処分先はどこか。

回答：2万立方メートル、残土配送の工事車両は一日80台。処分先は横浜港大黒ふ頭で新本牧ふ頭建設の埋め立てに利用している（この項は説明会終了後の回答）。

男性参加者・・・本掘進ではシールドマシン回転数を上げるのか

質問：梶ヶ谷と東百合ヶ丘の地質は同じなのか。

回答：全く同じではないが、上総層ということでは変わりはない。極めて似ている。

質問：調査掘進で一分間の掘進が10ミリ、本掘進では30ミリ。速度の違いはどうか。

回答：調査掘進では調査が必要であり、ゆっくりと少し進めて土圧などの状況をチェックするため。

質問：外環道では住民から騒音や振動の苦情があった時は回転数を落とした。本掘進は一分30ミリのペースで掘り続けるのか。

回答：シールドマシンも土砂の排出や壁面の造成などが必要で、掘り続けるということではない。

女性参加者・・・LCAを知らないとは！

質問：リニア新幹線についてLCAの計算結果を教えてください。

回答：LCA？

質問：えーっ！LCAを知らないで事業を進めているのか！ライフサイクル・アセスメントですよ。製品に必要な原料の採取から、製品が使用され廃棄されるまでのすべての工程での環境負荷を定量的に表すものだ。計算して下さいよ。

回答：今までもやっていないし、今後もやるつもりはない。

女性質問者・・・麻生区のルート上に住んでいるが、説明会に出るたびに不安は増すばかり

質問：麻生区のルート上に住んでいる。30年前に計画された事業も今もやろうとしているのかわからない。静岡県川勝平太知事は自然環境に大きな負荷を与えることでリニア工事に反対している。ここまで金をかけてしまったのでもう戻れないと考えているかも知れないが、リニアは開業しても安全だとは思えない。説明会では地下に大トンネルを掘ることで影響がどうなのかきちんと説明してほしい。麻生区のルート上の住民として説明会に出る度に不安が増すばかり。静岡県の工事が進まないのにここだけは進めるのか。

回答：中央新幹線の二重化の交通システム、東京・名古屋・大阪を短時間で結ぶことの経済効果を考えて事業を進めている。静岡とは関係なくいま進めている沿線での工事は全量を挙げて続ける。理解をお願いする。

（ここで説明会終了の発言があり、多くの参加者から質問続行を求める声が上がった）

リニア訴訟当面のスケジュール

〈ストップ・リニア！訴訟（原審）〉

昨年7月18日不当判決。その後152人の原告が東京高裁に控訴。口頭弁論は4月25日、6月27日、10月10日各11時開廷。控訴理由は印刷し頒布する。

〈中間判決控訴審〉

昨年11月28日、東京高裁で一部勝訴（36人の原告適格認め地裁差戻し）、一部敗訴判決。残りの原告が1月15日最高裁に上告。上告理由書も提出へ。

〈地裁差し戻し審〉

口頭弁論の期日は未定。

ここが問題！リニア新幹線 108号

リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会

天野捷一（中原・高津）

090-3910-8173

山本太三雄（宮前）

090-8775-11879

矢沢美也（麻生・多摩）

090-6108-65568